

# 株式会社アイ・ピー・エス

## SAP S/4HANA® Cloudの 先進的基幹システムの在り方を体現し、 業務変革に貢献

# IPS

Implementation Partner for SAP

### 業種

SAP 専門導入サービス提供、自社製品開発、  
保守サービス

### 年間売上高

14億2,000万円(2018年6月期実績)

### 従業員数

約90名(うち技術者75名)

### 本社

大阪府大阪市/東京都千代田区

### URL

[www.ips.ne.jp/](http://www.ips.ne.jp/)

### ソリューション

SAP S/4HANA® Cloud

### 活用分野

会計

SAP最上位のプラチナパートナーであり、準大手・中堅企業向けSAP製品の導入サービスで国内トップクラスの実績を誇る株式会社アイ・ピー・エス。同社はSAP S/4HANA® Cloudの可能性に注目し、他社に先駆けて会計領域に導入しました。導入から日々の利用を通じてさまざまな知見や技術を獲得した同社は、**お客様のデジタルトランスフォーメーションを支える先進的な提案に向けて、実践的なノウハウの蓄積**に取り組んでいます。

### 導入の背景

- 業務のあり方を見直し効率化を促進
- SAPの最新ソリューションの導入ノウハウの獲得
- クラウドERPの導入/運用のショーケース化
- SAP S/4HANA Cloud 導入提案力の強化

### 導入成功のポイント

- クラウドの標準機能に合わせて自社業務を整理/再構築
- 疑問点に対する回答や情報を各方面から幅広く収集
- SAP ジャパンによる技術サポートを全工程にわたって活用

### SAP 選択の理由

- クラウドERPによる自社業務の変革
- Web技術を中心とした新たなスキルセット獲得
- 今後高まるAI需要など先端技術に対する布石

### 導入効果

- 会計業務の全面的な見直しによってシンプル化を実現
- RPAやAIなど先端技術導入への基盤整備
- 今後のシステム自動化時代へ向けた顧客提案力の強化

## 全く新しいクラウドERPがもたらす 変革を体現するため自社導入を決断

SAPソリューションの専門パートナーとして準大手・中堅企業を中心に導入支援、運用サポートを手がける株式会社アイ・ピー・エス（以下、IPS）。業務にシステムを合わせるのではなく「お客様の業務をSAPシステムでどう実現するか」を念頭に置いたスピーディーで投資効率の高い導入支援は、多くの企業の信頼を得てきました。

短期導入で確実な成果を実現してきたIPSは、SAP初のクラウドERPとしてリリースされたSAP S/4HANA® Cloudの可能性に着目し、早期の自社導入を決定。取締役 営業統括 上席執行役員の久下直彦氏は、導入の目的を次のように語ります。

「ついに基幹システムのクラウド化が実現し、ベストプラクティスを設定すれば明日から使える時代が来たと思いました。IPSはクラウド版の基幹システムでも一番のパートナーを目指していきます。まったく新しい製品である以上、まずは自分たちで導入して使ってみなければ、お客様に勧めることはできないと考えました」

執行役員 事業開発部 部長の赤松洋氏も、システムインテグレーターとして避けるわけにいかないチャレンジだったと明かします。

「SAP S/4HANA Cloudには、従来のようにシステムをカスタマイズして使うという考え方が通用せず、用意されている機能をそのまま使うことが前提となります。つまりこの製品の登場によって、基幹システムの導入/運用スタイルの常識が180度変わることにあります」

### 初めてづくしの経験ながら

#### SAPの支援のもと短期導入を完遂

IPSは、SAP S/4HANA Cloudのリリース直後、いち早く導入を決断。2017年4月にSAPと契約締結/事前確認を行い、7月から本格的にプロジェクトが動き出しました。途中でバージョンアップ待ちの待機期間などもあったため、2018年1月に正式稼働を開始しています。

SAP 専門とあって社員の8割以上がエンジニア、そのほとんどがSAP認定コンサルタントのIPSですが、クラウドERPという経験のないソリューションの導入は、試行錯誤の繰り返しだったといいます。

「SAP S/4HANA Cloud自体がリリースされて間もなく、導入を始めた当初は問い合わせ窓口もなかったため、SAPのドイツ本社に直接相談することもしばしばでした。今回はコミュニケーションパスを開いていくことに時間を要しましたが、ソリューション自体は非常に短期間で導入できるものなので、これから導入するお客様はかなりスムーズに進むはず」（久下氏）

“初めてづくし”の道のりを支えたのは、SAPジャパンのサポートだったと赤松氏は語ります。

「SAP S/4HANA Cloudは売り切りではなく四半期ごとにアップデートを重ねていく製品なので、定期的なサポート体制が用意されています。環境の立ち上げから本番稼働まで、困ったことがあればとにかくSAPジャパンからのサポートを得られることは、非常に心強く感じました」

#### 業務の「断捨離」を通じて シンプル化のメリットを実感

SAP S/4HANA Cloudを自社の会計業務で利用するようになって、久下氏はSAPの提唱する「シンプル化」の良さを改めて実感したと語ります。

「当初は、機能が少ないことに驚きました。しかし、従来行ってきた業務を機能と照らし合わせて『断捨離』した結果、実はやらなくても良いものが多かったことに気付かされました。今やっている仕事が正義ではなく、必要な業務は何かを突き詰めていくことができました」

会計業務のシンプル化によって業務の割り振りを見直せたことは、クラウド化がもたらした大きな成果の1つだと同社は評価しています。

「ワークフローなども簡素化された結果、今後RPAやAIなど自動化を含む技術を取り入れていくことも、非常にスムーズに進められるようになります」（赤松氏）

IPSでは現在SAP Analytics Cloudの導入も進めており、久下氏は今後10年もしないうちに基幹システムから収集した情報の分析といった作業までもが、すべて自動化されていくと示唆します。

「あらゆる面から既存の仕組みのあり方が問い直されていく中で、当社のエンジニアやコンサルタントも本当に『人間が手がけるべき業務は何か』という課題と真摯に向き合っており、その答えをお客様に示せるようにならなくてはなりません。そうした意味でSAP S/4HANA Cloudは本気で会社を変えたいと考えるお客様の、真のビジネス改革に貢献できるソリューションだと考えています」

IPSとSAPは今回の導入で得たノウハウをもとに、新たなサービスメニューの開発もスタートさせています。絶えず進化を続けるIPSの歩みはさらに加速していきます。

「SAP S/4HANA Cloudは  
本気で会社を変えたいと考えるお客様の、  
真のビジネス改革に貢献できるソリューションだと考えています」

久下直彦氏  
株式会社アイ・ピー・エス  
取締役 営業統括 上席執行役員